

関西支部研修会

日時:令和5年 R5年3月5日(日)
場所:大阪 梅田センタービル
講師:松川 敏久先生



加納 淳一(兵庫県)



令和5年3月5日に梅田センタービルにて関西支部研修会が開催されました。

今回 SJCD の松川 敏久先生による【歯科治療において診ることと視ることの重要性～一本の補綴からフルマウスリコンストラクションまで～】というテーマでご講演をいただきました。

まず、歯科治療の最大の目的は口腔内の健康維持であり、一口腔単位で考え、我々が行った治療の永続性が保たなければならない。

治療の内容が1本の充填や補綴から咬合再構成・フルマウスの治療に至るまで診断すなわち「診る」ことは大変重要で、診断後に実践する技術およびカウンセリングが大切とのことでした。

歯科治療は生体にとって人口材料の装着・埋入を多くするためその治療精度が永続性に関係してくる。そこで視覚的情報すなわち「視る」ことが大切で、マイクロスコープ・ルーペなどを要所要所に使用し拡大視野で治療することにより治療精度の向上をはか

るとのことでした。

ランチョンセミナーとしてネクステラの ACTILINK Reborn の話がありました。

内容としては、インプラント体は製造工程から徐々に表面に炭化水素膜ができオッセオインテグレーションの表面積が減少、親水性の減少がおこるとのことです。その対策としてインプラント体に60秒ほどプラズマ照射することにより炭化水素膜を除去し、親水性を高めインテグレーションの期間短縮がはかれるとのことでした。

午後からは松川先生の長期症例などを供覧し SMILE Technique によるインプラント治療や今後増えてくるであろうインプラント体の撤去の仕方などをわかりやすく教えていただきました。

今回ご講演を拝聴させていただき、1つ1つの手技の精度をあげ 確実に積み重ねることにより長期の予知性に寄与できるのだと再認識させていただきました。